

投資事業評価調書（新規）

部課室名	県土整備部土木局 道路街路課	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	街路担当参事 荒谷 一平 (街路班長 安井 誠一郎)	内線	4474 (4480)	
事業種目	事業名	事業区間	総事業費	内用地補償費	着手予定年度	完了予定年度
街路事業	都市計画道路 西脇上戸田線 [西脇道路(東本町工区)]	西脇市 ^{うへの} 上野 _{にしわき} ～西脇	21 億円	16 億円	令和2 (2020)年度	令和6 (2024)年度
事業目的			事業内容			
<p>本路線は、西脇市の中心市街地の西側拠点「アピカ西脇」と国道175号をつなぐ道路で、中心市街地の骨格を形成する東西軸である。</p> <p>○ 安全な通行の確保 歩道と自転車専用通行帯を整備することにより、安全な通行を確保する。</p> <p>○ 中心市街地の活性化 西脇市新庁舎・市民交流施設の中心市街地への移転と合わせて道路整備を行うことにより、中心市街地の活性化を支援する。</p> <p>○ 防災機能の強化 無電柱化と拡幅により、緊急輸送道路の防災機能を強化する。</p>			<p>【延長】道路改築 520m</p> <p>【構造規格】第4種第1級</p> <p>【計画幅員】2車線 両側歩道・両側自転車専用通行帯 車道9.5m（全幅18.0m）</p> <p>【計画交通量】9,200台/日（R12推計）</p> <p>【現況交通量】 自動車7,945台/日（H27センサス） 自転車68台/12h（H27センサス） 歩行者55人/12h（H27センサス）</p> <p>【負担割合】 国55% 県22.5% 市22.5%</p>			
評価視点		評価結果の説明				
(1) 必要性		<p>① 現道は歩道が未整備であり、過去5箇年(H26～H30)で8件の交通事故が発生している。また、本路線は西脇市の自転車ネットワーク計画に位置づけられていること、一部は小学校の通学路となっていることから、歩行者・自転車の安全な通行を確保する必要がある。</p> <p>② 当路線は市のまちなか活性化計画(H31.2)において、主要な東西軸（シンボルロード）として位置づけられている。沿道の旧来住家住宅・播州織工房館などの観光施設、さらに西側には業務・文化交流施設であるアピカ西脇、東側には医療福祉拠点である西脇病院、南側には新市庁舎・市民交流施設等が位置することから、これらの拠点をつなぐ軸として整備の必要性が高い。</p> <p>③ 広域の主要幹線である国道175号につながる緊急輸送道路に指定されており、無電柱化と拡幅により防災機能を強化する。</p>				
(2) 有効性・効率性 (執行環境状況)		<p>① 国道175号接続部から順次改築工事を進めており、引き続き本路線を整備することにより、一連区間が整備され、市域のネットワークが強化される。</p> <p>② 西脇市より、早期整備に向け事業用地の代替地について空き地等低未利用地を活用するなどの協力が示されている。</p>				
(3) 環境適合性		<p>① 歩道は、雨水が地中に浸透する透水性舗装を採用し、地下水涵養を図る。</p> <p>② 無電柱化により、良好な景観を形成する。</p>				
(4) 優先性		<p>① 新庁舎・市民交流施設が令和3(2021)年3月に完成予定であり、市街地の東西軸を形成する本路線の早期整備が必要である。</p> <p>② 「地域の防災道路強靱化プラン」に位置づけられており、災害に強い強靱な県土づくりを進める上でも早期整備が必要である。</p>				
【事後評価】 対象・対象外		<p>① 全線完成後に、地域の活性効果、事業に対する県民の満足感等について検証し、事後評価を行う。</p>				

都市計画道路事業 (都)西脇上戸田線〔西脇道路(東本町工区)〕

位置図

- 凡例
- : 国道
 - - -: 国道(事業中)
 - : 県道
 - : 事業区間
 - : 公共施設、学校等
 - : 交通量調査地点



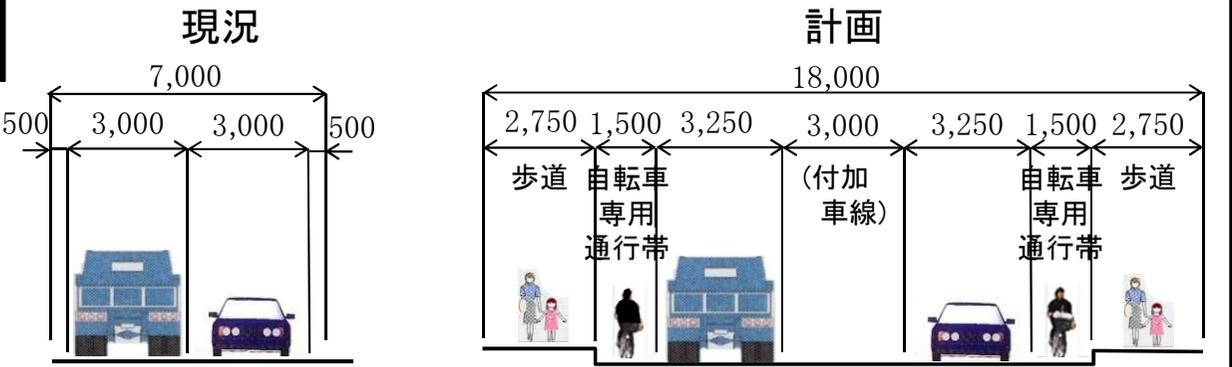
目的

- ①安全な通行の確保
- ②中心市街地の活性化
- ③防災機能の強化

事業概要

事業区間: 西脇市上野～西脇
 総事業費: 21億円
 内用地補償費: 16億円
 事業期間: R2～R6
 事業概要: 歩道設置
 自転車通行空間整備
 延長: 520m
 計画幅員: 9.5m(18.0m)
 計画交通量: 9,200台/日(R12推計)

横断図



工程表

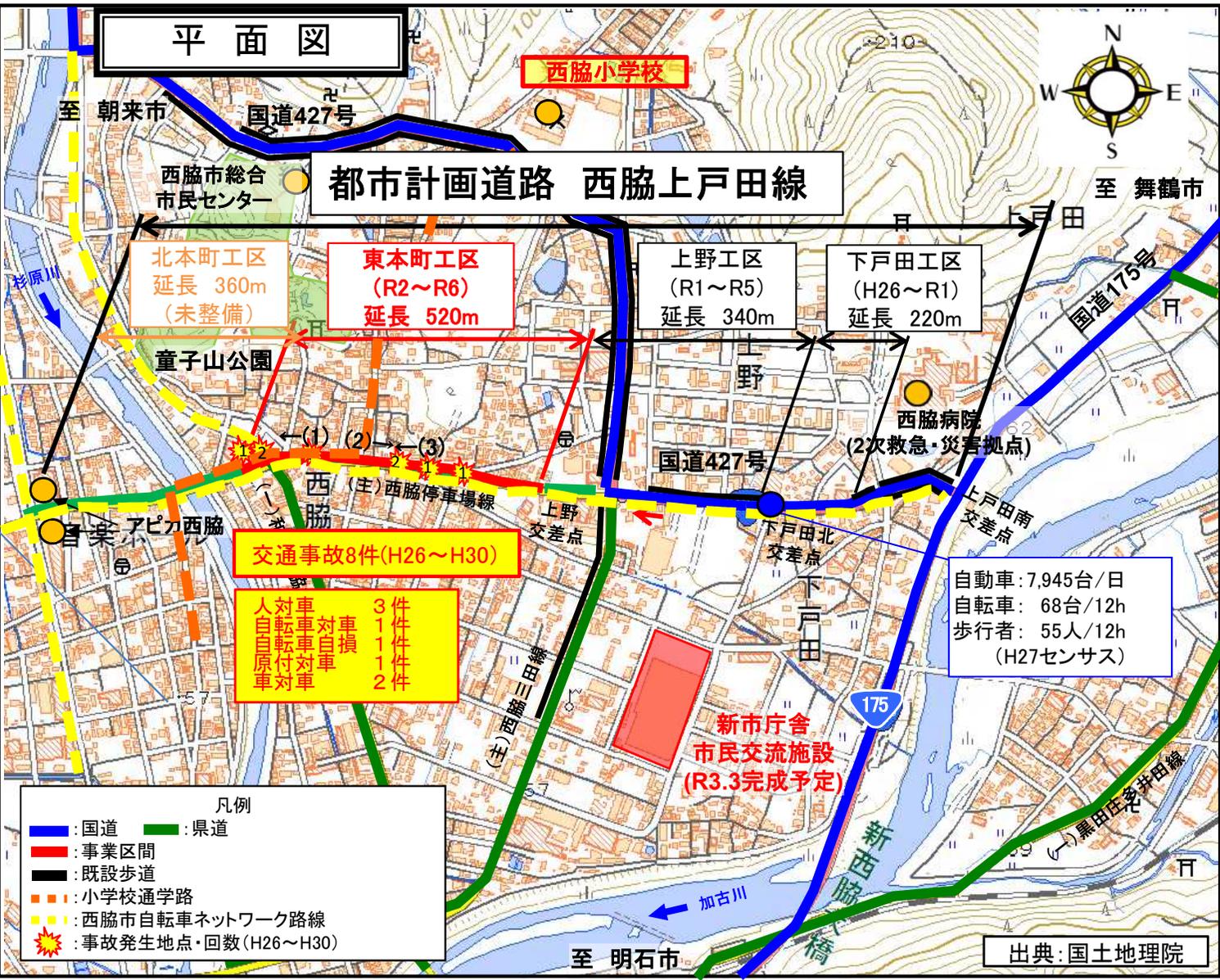
工種	年度				
	R2	R3	R4	R5	R6
調査・設計	■				
用地補償		■	■	■	
改良工事				■	■

事業の必要性・優先性

① 現道は歩道が無く、事故が多発しているため、通学児童等歩行者・自転車の安全な通行の確保が必要

現況写真等

① 通行・通学状況 (歩道未整備)



事業の必要性・優先性

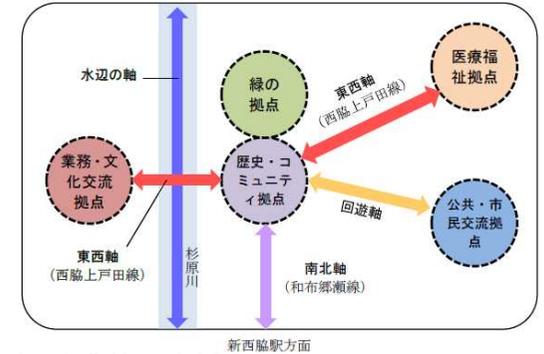
② 中心市街地の骨格となる東西軸(シンボルロード)の強化により、新市庁舎の整備を契機とした中心市街地の活性化に寄与

現況写真等

②中心市街地の活性化

○ 西脇市まちなか(中心市街地)活性化計画(H31.2)での位置づけ
東西軸:「拠点をつなぐシンボルロードとしての整備」

<拠点と軸の形成イメージ>



○ 観光・産業等の支援

播州織工房館・旧来住家住宅に4万人以上が来館(H30実績)
道路整備で観光のアクセス改善・歩行者環境向上



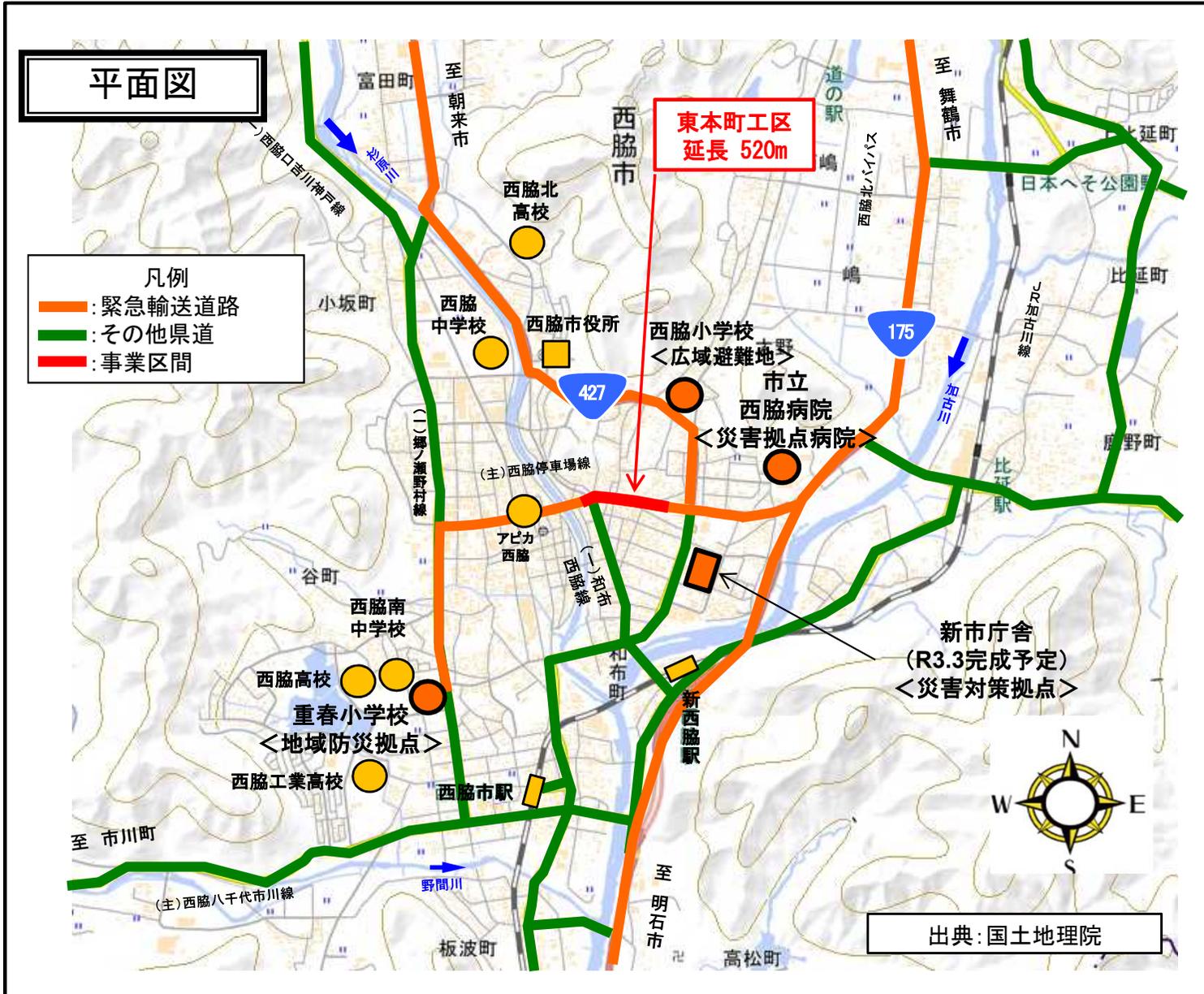
※ 播州織: 西脇市を代表する地場産業。糸を先に染めて織り上げる独特の製法で、自然な風合い、豊かな色彩、肌触りの良さが特徴

平面図



事業の必要性・優先性

③ 拡幅と無電柱化により、国道175号につながる緊急輸送道路の防災機能を強化



現況写真等

③-1 西脇病院(災害拠点病院)



③-2 新市庁舎(災害対策拠点)



③-3 電柱倒壊事例

倒壊した電柱により、救援・救助活動に甚大な支障



事業の有効性・効率性

(1) 費用対効果に含まれない効果

評価の視点		効果項目
①安全・安心の確保	災害時	緊急医療・緊急物資の円滑な輸送の確保 (緊急輸送道路の整備、防災拠点・災害拠点病院へのアクセス道路の整備)
		救助・救援活動の支援 (災害時の通行不能や孤立集落の解消)
		減災対策への取組み (二線堤道路、避難路・避難場所としての機能、延焼防止機能の確保)
	平時	救急医療体制の支援
		交通安全対策
②地域の活性化	地域間交流の促進	
	中心市街地の活性化	
	地域産業の活性化	
	観光支援	
	地域プロジェクト等支援	
③円滑な交通体系の確保	公共交通機関利用の促進 交通結節機能の向上	
④地域の環境改善	沿道環境の改善 景観形成	

該当する事業内容等	
○	西脇病院(2次救急、災害拠点)へのアクセス性が向上
○	家屋倒壊により通行止めが予想される現況道路の拡幅 電線類地中化により、電柱折れによる通行止めを防止
○	火災時の延焼遮断帯としての機能を向上(幅18m)
○	西脇病院(2次救急、災害拠点)へのアクセス性が向上
○	歩道・自転車専用通行帯整備により安全な歩行者・自転車空間を確保
○	新庁舎を含む中心市街地と郊外部の連携強化
○	中心市街地における安全な歩行者・自転車空間を確保
—	
○	市の中心市街地活性化計画において、観光・交流ルートの構築に寄与
○	新庁舎・市民交流施設整備を起爆剤とした西脇市都市再整備計画の支援
○	新庁舎を含む中心拠点地区においてバスの公共交通結節点機能の高度化を図る都市再生整備計画に寄与
○	電線類を地中化し、沿道景観が向上

(2) 地域からの要望状況等

要望状況等	地元、市及び地元選出県議より要望がある。
-------	----------------------